

和歌山だよいい

平成26年 6月号



あら川の桃（紀の川市）

CONTENTS

1. 知事メッセージ…………… P1
2. 和歌山県政トピックス…P2～P9
3. お知らせ…………… P10～P11
4. ふるさと歳時記…………… P12～P13

5月から順次開催中の国体の競技別リハースル大会において、県選手団も大活躍しています。
詳しくは、国体のHPで御確認ください。
<http://www.wakayama2015.jp/kokutai>



国体まで

和歌山県のインフラの整備は急ピッチです。特に来年の国体までに完成させようという大型プロジェクトが目白押しです。紀伊半島一周の高速道路は田辺―すさみ間が完成予定、京奈和自動車道が和歌山県内は完成予定、他にも第二阪和国道、国道480号の鍋谷峠道路、それに北山村への曲がりくねった道路の改良の奥瀬道路(Ⅱ期)が完成予定、その他和歌山市内の長く放置されていた都市計画道路などのかなりの地域の道路も概ね完成します。目下、このための工事が国土交通省や県の手でどんどん進んでいます。もともとインフラの遅れをとり戻そうと国体までという期限をてこに国への働きかけを熱心にやってきて、ほぼ見通しがついていたのですが、政権交代があり、初期の民主党政権下で予算が大幅に削られ、成否が危ぶまれるようになってしまいました。しかし、さまざまな悪戦苦闘の末、民主党政権の後期あたりで少し復活の芽が出て、現在の政権のもとで、予算を大幅に増やしてもらって、遅れを一気に挽回しようとしているのです。

そうした中で、和歌山県の国土交通省直轄道路の本年度当初予算は、四国4県を合わせた額を上回り、北海道に次いで全国2位のシェアとなっています。

おかげで、今、南でも北でも県内で工事の槌音が響き、全国から集まったダンプカーが走り回っているというような状態になっています。もちろん、多くの地で県民の方が協力してくださり、用地取得がスムーズにいつていることが、これを可能としているのです。県民が一致協力して、県を造り上げていく、これは素晴らしいことではありませんか。そして、スムーズに国体・全国障害者スポーツ大会を運営した後は、このインフラを使って今まで実現できなかった夢を一人ひとりが工夫して県土に描いていこうではありませんか。



5/7 定例記者会見にて

今月の和歌山県政トピックス

* 最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

●日・西交流 400 周年、熊野古道世界遺産登録 10 周年記念文化交流団スペイン訪問

・5月11日から5月17日の日程で、下副知事を団長とする文化交流団(田辺市関係者、高野山、熊野本宮大社、熊野速玉大社、那智山青岸渡寺、道成寺関係者)計46名が、日・西交流400周年及び熊野古道世界遺産登録10周年を記念して、スペインを訪問しました。今回の訪問は、平成24年7月に仁坂知事とガリシア州首相との間で友好親善関係と連携強化に係る覚書に基づいて実施されたものです。

・スペインでは、「熊野古道」と姉妹道関係にある「サンティアゴへの道」を有するガリシア州及び首都マドリードにて、「和歌山文化プロモーション」を開催し、和歌山県のPRを行いました。

・また、今回の訪問に合わせて、田辺市がサンティアゴ・デ・コンポステーラ市と観光交流協定に調印しました。

サンティアゴ

○和歌山文化プロモーション

・5月13日、サンティアゴ・デ・コンポステーラ大聖堂において、熊野修験者による法螺貝演奏(那智山青岸渡寺)、男舞(熊野本宮大社)、神楽「神なぎの舞」(熊野速玉大社)、声明(高野山)の披露など、和歌山県の伝統文化・精神文化を紹介し、大いに和歌山をPRしました。

・300人を超える市民やマスメディアの方が集まり、座り切れない人が大勢出るほど大聖堂は満席となり、中には、初めて触れる日本の文化に感動のあまり涙ぐむ女性もいました。これを契機として、ますます県とガリシア州との交流が広がることを期待します。



○ガリシア州文化・教育・大学担当大臣との会談

・5月13日、下副知事は、ガリシア州文化・教育・大学担当大臣と会談し、今後も青少年交流を中心に多くの分野において交流を深めていくための具体的なメニューが話し合われました。

・そうした中、5月31日、6月1日の両日、アルベルト・フェイホー ガリシア州首相が初めて和歌山を訪れ、県の先進産業を視察するとともに、両県州の友好の礎である熊野地域を訪れ、熊野古道を散策するなど、「熊野古道」と「サンティアゴへの道」との姉妹道の更なる交流を深化させていく具体的なメニューが実現しました。



○田辺市、サンティアゴ・デ・コンポステーラ市による観光交流協定締結

・5月13日、下副知事立ち会いのもと、サンティアゴ・デ・コンポステーラ市庁舎において、同市長と田辺市長による観光交流協定の調印式が執り行われました。県州レベル、民間団体レベルに加えて、市レベルにおいても協定を締結することができ、更なる交流の深化が期待されます。



○高野・熊野文化講話

・5月13日、サンティアゴ・デ・コンポステーラ大学にて、熊野速玉大社 上野宮司、高野山無量光院 土生川住職が日本の精神文化に関して講話を行い、また、道成寺 小野住職が安珍清姫物語に関し、絵解き説法を行いました。集まった学生、学校関係者約200名が和歌山の宗教者による講話に熱心に聞き入っていました。



マドリード

○和歌山文化プロモーション

・5月14日、日・西交流400周年事業の一環として王立サンフェルナンド美術アカデミーにて開催された浮世絵展のオープニングを飾るイベントとして、県の伝統文化・精神文化を紹介する「和歌山文化プロモーション」を開催しました(サンティアゴでの和歌山文化プロモーションと同様のものを披露)。
 ・250名を超える市民が集まり、参加者は披露された日本文化に感動し、惜しみない賞賛が送られました。



○サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路

・5月14日、サンティアゴ・デ・コンポステーラ巡礼路の視察を行いました。一行は、途中、地元小学校・幼稚園児の盛大な出迎え・歓迎を受け、一方、児童達は、熊野修験者(山伏)による法螺貝演奏で日本文化に触れ、感動している様子でした。



○和歌山県観光セミナー

・5月14日、現地の旅行会社及びメディア関係者を対象に、県の観光資源を紹介するセミナーを行いました。
 ・県による高野・熊野に焦点を当てたプレゼンテーションに続き、道成寺 小野住職による絵解き説法が行われ、セミナー修了後には、参加者から具体的な旅程について活発に質問がありました。



○日西観光協会長との会談

・5月14日、下副知事は、訪日旅行の促進及び日本向け観光情報の発信を主要業務として活動している日西観光協会 下平会長と会談を行い、県とガリシア州との交流を促進するための事業について意見交換しました。



トルコ・イスタンブール

・5月16日、下副知事は、帰路の途中、トルコのイスタンブールに立ち寄り、福田 在イスタンブール日本国総領事及びイスタンブール日本人会 佐藤会長と会談し、日本・トルコ合作映画「エルトゥールル」の制作に向け、協力要請しました。

●2014 FIFA サッカーワールドカップブラジル大会日本代表必勝祈願祭 IN 熊野！

・5月28日、熊野三山協議会の主催により、FIFAサッカーワールドカップ日本代表必勝祈願祭が開催され、(公財)日本サッカー協会の川淵三郎最高顧問、田嶋幸三副会長、仁坂知事、寺本那智勝浦町長らが出席しました。

・28日には聖地熊野において、熊野那智大社、那智山青岸渡寺を正式参拝し、5月20日に設置されたばかりの「なでしこJAPAN」記念碑を視察したほか、翌29日には、熊野本宮大社と熊野速玉大社を正式参拝しました。

・本協議会では、1998年のフランス大会から毎回必勝祈願祭を開催しており、日本サッカー協会の正式参拝は2002年の日韓共同開催から数えて4回目となりました。

・和歌山県とサッカーの関係は深く、日本サッカーの始祖と言われ、東京高等師範学校ア式蹴球部創設に携わった中村覚之助氏は、那智勝浦町の出身です。その縁で、日本サッカー協会のシンボルマークには、熊野権現の使いとして崇められている神鳥である3本足のからす「八咫鳥(やたがらす)」が使われています。

・当日、記念として、ザッケローニ監督のサイン入りサッカーボールと川淵最高顧問、田嶋副会長のサイン入りサッカーボールが仁坂知事、中村覚之助氏の子孫である中村統太郎氏らに贈られました。

・日本代表は、6月15日(日本時間)の対コートジボワールを皮切りに、6月20日(同)の対ギリシャ、6月25日(同)の対コロンビアとグループリーグを戦います。“導きの神鳥”八咫鳥が日本サッカーチームを勝利に導くことを祈念しますとともに、皆さんの応援をお願いします。



●紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会募金の寄附団体に感謝状贈呈

・5月23日、一般社団法人和歌山県建築士事務所協会の通常総会開催に先立ち、会員約90名の出席のもと、小川浩会長から仁坂知事へ紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会募金「さいちゃん募金」の目録が手渡され、仁坂知事からは、小川会長へ感謝状を贈呈しました。

・提供いただきました寄附金は、両大会のボランティア活動や県民運動などの大会運営経費に活用させていただきます。



●「わかやま森林と樹木の日」記念行事を開催

・5月24日、日高川町のかわべ天文公園において、「わかやま森林と樹木の日」記念行事を開催しました。県では、平成23年に開催した第62回全国植樹祭の意義を後世に伝え、県民みんなで和歌山の森林や樹木を守り育て、緑豊かな和歌山を将来に引き継いでいくため、「和歌山の森林及び樹木を守り育てる条例」を制定し、記念行事を開催しています。



・冒頭、仁坂知事は、「3年前に田辺市で開催した全国植樹祭は感動的な大会であった。皆さんの心の中に「森林と樹木を守ろう、育てよう」とする気持ちが一層高まることを期待します。」と挨拶しました。その後、条例に基づいて創設した「和歌山県緑化功劳賞」の表彰も行いました。



・この表彰は、森林及び樹木を守り、または育てる活動について、特に顕著な功績があった方々を表彰するもので、今年度の受賞者である美浜町立松原小学校の代表の子どもたちに、仁坂知事から表彰状が手渡され、功績を讃えました。松林「煙樹ヶ浜」の中に位置する松原小学校の皆さんは、松林の重要性を伝えるため10数年前から学校周辺の「松葉かき」を行うとともに、学習活動では菌根性きのこ「ショウロ」の発生誘導試験に取り組み、松林保全の知識を深めています。こうした活動は、他の団体の模範となり地域緑化活動に貢献しています。

・さらに、記念植樹では、第62回全国植樹祭で天皇陛下にお手播きいただきました「オガタマノキ」、皇后陛下にお手播きいただきました「クマノミズキ」の苗木をそれぞれ2本植樹しました。同時に、参加者一人ひとりが竹ポットにドングリの種をまきました。

・式典終了後は、プランターチェアや木ホルダーなどの木工体験などが行われ、参加者らは森林と樹木の恵みを改めて感じていました。

●ボーイスカウト日本連盟全国大会が和歌山で開催

・5月24日と5月25日、県民文化会館において、平成26年度ボーイスカウト日本連盟全国大会が開催されました。10回目となる今回、和歌山県で初めての開催となりました。



・開会の式典において、奥島 孝康理事長が、「来年の世界スカウトジャンボリーを日本のボーイスカウト運動の一つの大きな転機と考えて、ゼロからの出発とし、指導者の養成に力を入れたい。」と挨拶した後、仁坂知事は、「世界ジャンボリーを来年に控えた全国大会を和歌山で開いていただくというのは本当にありがたい。」と感謝の言葉を述べ、全国各地から集まったボーイスカウト指導者を歓迎しました。



・2日間で約800名が参加する中、スカウト運動全般について広く情報・意見交換が行われ、ボーイスカウト加盟員の研鑽の場となりました。そのほか、「稲むらの火の館」の 崎山 光一館長が、濱口 梧陵について講演し、災害対策の必要性を訴えました。また、県とボーイスカウト和歌山連盟とは、防災教育などについて連携する協定を締結しました。

・今年度の全国大会は、来年の夏に迫った「第23回世界スカウトジャンボリー」(44年ぶりの日本開催)、そして、8年後のボーイスカウト日本連盟創立100周年に向けて、一層の発展を目指す大会となりました。

●平成26年度わがまち元気プロジェクト第1弾決定！

・県では、地域固有の資源を活用し、個性豊かで活力ある地域づくりを推進する市町村を「わがまち元気プロジェクト」として、平成21年度から支援していますが、新たに紀の川市の「紀の川市フルーツ・ツーリズムの展開によるファン獲得プロジェクト」への支援を決定しました。これで、13番目の支援となります。

<概要>

○現状と課題

・紀の川市は、県内一かつ全国的にも有数の農業生産地であり果樹王国ですが、年々観光客(貴志川・桃山地区)が減少していることが課題となっており、果樹等の農産物を活かした観光客誘致に効果的に結び付けることが求められています。

・また、「フルーツ」だけでなく、和歌山電鉄たま駅長とTAMAステーション、紀の川沿いに整備が進むサイクリングロードなど、魅力ある地域資源も存在しています。

・さらに、平成27年度には京奈和自動車道が県内全線開通することもあり、今後は、近郊大都市住民をターゲットに自然・文化・人々との交流を楽しむ体験型観光の推進、紀の川市の一番の魅力である「フルーツ」を軸としたグリーン・ツーリズムの展開と情報発信に取り組んでいきます。

○取組の概要(3本柱)

①フルーツと人を活かした誘客の仕組みづくり

- ・フルーツと地域資源とをコラボさせたツアー商品を企画し、ファムツアーやモニターツアーを実施
- ・フルーツをイメージした土産物等の新商品開発支援
- ・「紀の川フルーツ博(仮称)」(期間限定体験博イベント)の開催

②フルーツツーリズムの展開に向けた体制づくり

- ・「紀の川市ぷるぷるファンクラブ(仮称)」の開設
- ・ファームステイ(農家民泊)の推進
- ・おもてなし力強化のための人材育成・研修実施

③「紀の川市＝フルーツのまち」のイメージアップとプロモーションの強化

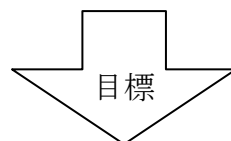
- ・大消費地(東京、名古屋等)での観光PR、特産品の販売など「大紀の川市フェア」の開催
- ・ピーチ・ロード、ストロベリー・ロードの指定とそれを活用した情報発信
- ・紀の川ぷるぷる娘キャラによるPR
- ・観光協会ホームページのリニューアル



貴志川地区「いちご狩り」



桃山地区「あら川の桃」



旧貴志川町地域・旧桃山町地域の観光消費額(観光客数)	14億円(平成24年度)	→	20億円(平成29年度)
体験メニュー交流人口	2,300人(平成24年度)	→	5,000人(平成29年度)
紀の川市ファンクラブ会員	—	→	2,000人(平成29年度)

●和歌山県知事表彰式を開催しました

・6月2日、和歌山市のアバローム紀の国において「平成26年和歌山県知事表彰式」を開催しました。
 ・和歌山県知事表彰は公共の福祉増進に功労のあった方、その他県民の模範となるべき方を表彰して、その功績を讃えるもので、昭和28年に始まり、これまでに、多くの方々を表彰してきました。
 ・今年は、52名と6団体の方々を表彰し、仁坂知事から表彰状と記念品を贈呈しました。
 ・仁坂知事は、受賞者の皆さんの長年にわたる御尽力に感謝の意を表すとともに、「ふるさと和歌山が更に輝けるよう、県は全力を尽くしていく。和歌山の飛躍のために一層のお力添えを賜りたい。」と式辞を述べました。
 ・その後、受賞者を代表して、保健福祉の増進の分野で受賞の百井亨さん(日本赤十字社和歌山医療センター院長)が、「少子高齢化が急速に進む和歌山において、良質な医療が提供できるようさらに取り組んでいきたい。」と挨拶しました。受賞者は以下の方々です。



<知事表彰受賞者> (順不同・敬称略)

(地方自治の振興)

町の職員として地方自治の発展・育成に尽くされた方々

岡本和夫、竹本光志

(保健福祉の増進)

民生・児童委員や医師、薬剤師などとして地域の福祉や医療、保健衛生の向上に尽くされた方々

青島潔、稲葉真也、遠藤吉貞、郷間乙身、坂本健一、田中一嘉、中林淳永

原正和、舟底敬修、古川浩一、向井一雄、百井亨、山本隆造

(環境衛生の向上)

環境整備や食品衛生向上に努め、環境衛生の発展に尽くされた方々

玉岡憲明、中村紘一郎、東山泰清

(暮らしの安全及び向上)

地域の交通安全や防犯活動、防災活動、運輸業などを通じ、県民生活の安全と向上に尽くされた方々

芦村明、木村靖、和田政実、尾崎宏枝、池本勝己、塩津区防災会

(教育、文化等の振興)

芸術を通じた地域文化の振興、教育の充実、人権啓発活動に尽くされた方々

橋本昭彦、井上節子、森本光子、玉置和子、川口俊美、藤川一郎

和歌祭保存会

(産業の振興)

商工業・農林水産業・建設業などでの活動を通じ、業界の振興及び育成発展に尽くされた方々

上山肇、岡田純二、吉良善和、左海凱隆、志賀啓二、高勝文、谷ノ上富茂

中川和城、永岡雅次、坂下行平、宇治健一、新岡敏美、田中一正、野村義夫

前田忠雄、堅田隆弘、木下匡史、田所勉、中井賢次、宮脇勝政、中西重裕

(ボランティア)

精力的なボランティア活動により地域の活性化に尽くされた方々

小島安子、原田千恵子、しらはま子どもの本の会

(地域おこし)

様々な分野での新たな取組により地域の活性化に尽くされた方々

特定非営利活動法人 きみの定住を支援する会、九度山町住民クラブ

孫市の会

●被災市町村への職員等派遣による支援体制を強化します

・大規模災害発生時において、県が早期に被災市町村を支援するため、昨年度から、県職員を中心とした緊急機動支援隊を創設してありますが、今回、新たに災害廃棄物処理と住家被害認定に関する支援体制を創設し、被災市町村の支援体制の更なる充実・強化を図ります。

○災害時緊急機動支援隊について(昨年度～)

・大規模災害発生時には、市町村の機能の著しい低下や個々の市町村では十分な対応ができない状況が発生するおそれがあることから、昨年度支援隊を創設し、県職員720名を隊員に任命しています。支援隊は、県災害対策本部長(知事)の指示を受けて、あらかじめ決められた和歌山市を除く沿岸市町(古座川町を含む)の支援に向かいます。



<被災地での役割>

- ①連絡調整…情報収集支援、資料作成支援、会議の運営支援
県災害対策本部との連絡調整
- ②情報収集…避難所等での情報収集、情報をタブレット端末等で本部に伝達



○災害廃棄物処理支援要員について(新規)

・災害廃棄物の処理を迅速に進めることが、住民の生活再建や被災地の早期復旧・復興にとって重要であることから、廃棄物行政の経験が豊富な職員や紀伊半島大水害被災地に派遣された職員16名を災害廃棄物処理支援要員(県職員)として、被災市町村に派遣します。

・また、派遣に際しては、「大規模災害時における災害廃棄物の処理等に関する協定」に基づき、一般社団法人県産業廃棄物協会の協力を得て、同協会と県職員がチームを編成し、災害廃棄物の処理を支援します。

<被災地での役割>

- ①災害廃棄物収集・処理体制の確立
- ②災害廃棄物発生状況についての情報収集
- ③廃棄物処理施設の被災情報についての情報収集
- ④災害廃棄物仮置場・集積場の設置及び運営

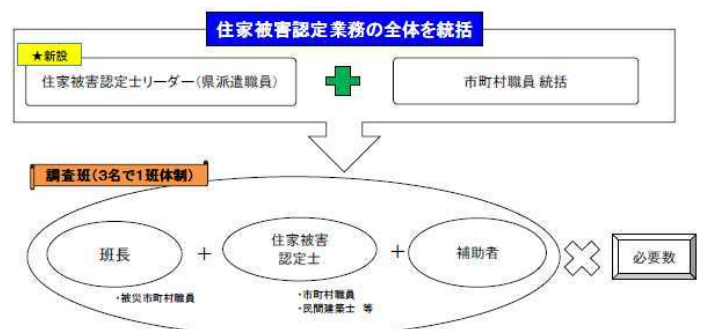


○住家被害認定支援について(新規)

・住家被害認定とは、災害対策基本法に基づき、市町村が地震や風水害等の災害により被災した住家の被害程度を認定するもので、この認定に基づき罹災証明書が交付されます。被害認定を迅速に行い、支援制度を利用する際に基準となるこの罹災証明書を早期に発行するため、住家被害認定士を速やかに派遣できる体制を整備します。あらかじめ住家被害認定士リーダーを任命し、災害時には市町村職員の統括の方と協議しながら指令を出します。現地では、地域事情に詳しい被災市町村職員を班長に住家被害認定士等を含む3名体制で被害認定に当たります。平成28年度までに、住家被害認定士を1,000人以上養成します。

<被災地での役割>

- ①住家被害認定調査に係る全体計画の作成
- ②県庁との連携による他市町村職員や民間建築士などの受入調整
- ③認定基準に関する調査班からの問い合わせ対応
- ④調査全体の進行管理



※地域事情に詳しい被災市町村職員を班長とし、被災市町村で不足する住家被害認定士を県で養成した他市町村職員や民間建築士の派遣により支援

●株式会社プリントテクニカが橋本市「妻・河瀬用地」へ工場進出

・5月15日、株式会社プリントテクニカ(本社：大阪府東大阪市)が橋本市の「妻・河瀬用地」へ工場進出することが決定し、橋本市役所において協定調印式が開催されました。

・同社は、昭和63年設立で、スクリーン印刷を主力とした各種印刷業を行っています。耐久性や機能性に優れ、視聴効果やトレンドをうまく取り入れた独自性のある特殊印刷を得意としており、航空自衛隊機用転写印刷物、高級化粧品容器、携帯電話アクセサリなど幅広い分野に展開し、法人ユーザー数は300社以上に及びます。

・今回、手狭になっていた東大阪市の現工場を「妻・河瀬用地」にすべて移設し、生産性の向上を図るとともに、最新設備を導入し新分野の開拓にも乗り出します。

・橋本市の工場の操業は平成27年8月に予定されており、県内新規地元雇用者10名が見込まれています。

・これで、平成18年12月以降の企業立地件数は128件となりました。



●「神戸和歌山県人会」総会が開催されました

・5月18日、平成26年神戸和歌山県人会総会・懇親会が神戸市の東天紅において、開催されました。

・懇親会の冒頭、小畑会長は、日本経済新聞に掲載された仁坂知事の記事にふれながら、「知事も紀州藩の歴史を勉強して改めて和歌山県のことを見直されたそうだが、私も和歌山の歴史について、色々と勉強し若い世代に伝えていきたい。」と挨拶。また、この日は神戸まつりの開催日とも重なり、「県人会の後は祭りも堪能して下さい。」とPRしました。

・懇親会には和歌山市で活動している「孫市の会」の森下 幸生代表も参加し、戦国時代に活躍した武将「雑賀孫市」と鉄砲集団「雑賀衆」を紹介して会を盛り上げました。

・神戸和歌山県人会の皆さんには、ふるさと納税等でご協力いただいていることに、感謝申し上げます。



挨拶する小畑会長

●「堺和歌山県人会」総会が開催されました

・6月1日、堺和歌山県人会第53回総会・懇親会が堺市のホテルサンプラザにおいて、開催されました。

・懇親会の冒頭、保田前会長からバトンを引き継いだ亀谷会長が、就任の報告を兼ねて、県人会を盛り上げていきたいと挨拶しました。

・続いて、来年開催される「紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会」に向けて、堺和歌山県人会から和歌山県に寄附金が贈呈され、県からは感謝状とマスコットキャラクター「きいちゃん」のぬいぐるみと大会イメージソングのCDが県人会に贈られました。

・アトラクションでは、堺すずめ踊りが披露され懇親会を盛り上げました。

・堺和歌山県人会の皆さんには、今回の国体寄附をはじめ、ふるさと納税等でご協力をいただいていることに感謝申し上げます。



挨拶する亀谷新会長

ふるさと和歌山応援寄附のお礼のご案内

ふるさと和歌山応援寄附の取組に多数の皆様のご理解とご賛同をいただき誠にありがとうございます。

お陰をもちまして、平成25年度は146人の方から1,784万950円の温かいご寄附をいただきました。また、心温まる力強い応援のメッセージも多数いただきました。紙面をもちまして厚く御礼申し上げます。

お寄せいただいた寄附金は、次のとおり活用させていただきましたのでご報告申し上げます。

ふるさと和歌山応援寄附金の活用

平成25年度寄附総額 17,840,950円

活用額
16,500,000円

※残りの1,340,950円は平成27年度以降の事業に活用させていただきます。

寄附金活用事業

「世界遺産『紀伊山地の霊場と参詣道』の保全や活用」として

熊野三山の熊野参詣道等の復旧、保全	200万円
熊野速玉大社の保存修理	180万円

「わかやま国体の開催に向けての準備」として

国体開催のための競技用具整備	350万円
----------------	-------

「わかやまの美しい海づくりの推進」として

プレジャーボートの係留施設の整備	60万円
------------------	------

「わかやまの文化財の保護を進める」として

丹生都比売神社本殿の保存修理	150万円
琴の浦温山荘園の保存整備	150万円
湯浅町湯浅伝統的建造物保存地区の保存修理	100万円

「学校図書館や県立図書館の蔵書の充実」として

県立学校の図書館の蔵書の充実	230万円
県立図書館の蔵書の充実や県民・市町村への貸出し推進	230万円

この他の施策も積極的に推進していますので、本年も引き続き、ふるさと和歌山応援寄附を通じて和歌山県を応援していただきますようお願い申し上げます。

また、ふるさと和歌山応援寄附は、全国の郵便局から払込ができます。同封の払込用紙で手軽に寄附をすることができますので、ぜひご利用ください。

「ふるさと和歌山応援サイト」では、寄附申出時に公表に同意していただいた方のお名前や応援メッセージを掲載していますので、ぜひご覧ください。

[ふるさと和歌山応援サイト](http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/)

検索

URL <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

●南方熊楠記念館新館整備のための寄附金を募集します

- ・開館50周年を機に、より魅力的な施設とするため、全国の熊楠ファンからの寄附金を募集します。皆さんの御協力をお願いいたします。
- ・寄附の方法や新館整備等の概要については、南方熊楠記念館のホームページを御覧ください。<http://www.minakatakumagusu-kinenkan.jp/>

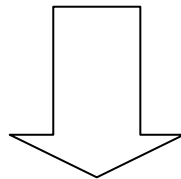
事業の概要

名称：南方熊楠記念館新館建設
 所在：西牟婁郡白浜町(番所山)
 事業計画：平成26年度 基本設計、実施設計
 平成27年度 建築工事
 平成28年度 新館開館予定

総事業費：約3億円

※3,000万円を目標に全国から広く寄附を募る

募集期間…平成26年6月1日から平成28年3月31日まで【予定】



整備後

- 番所山公園の中核施設として郷土文化への理解を促進
- 年間6万人の入館者を目指す(現在：年間2万人)

今後の予定

平成27年度 南方熊楠記念館開館50周年
 平成28年度 南方熊楠没後75周年
 平成29年度 南方熊楠生誕150周年

【南方熊楠記念館本館】



<歴史>

昭和37年 南紀行幸の際、昭和天皇が南方熊楠を偲んで歌を詠まれたため、神島も見える白浜町番所山に記念館建設の運動開始

○昭和天皇が詠まれた歌

「雨にけふる神島を見て 紀伊の国の生みし
 南方熊楠を思ふ」

昭和40年 開館

平成12年 入館者100万人達成

平成19年 南方熊楠記生誕140周年記念特別展開催

イベント情報(6月11日～7月10日)

期間	行事名	場所	問い合わせ先
6/14	あじさい祭り	那智勝浦町・熊野那智大社	熊野那智大社 0735-55-0321
6/15	青葉まつり	高野町・高野山	金剛峯寺法会課 0736-56-2011
6/15	あじさい祭り	有田川町・仁平寺	実行委員会 0737-32-3695
6/20 6/21	ビルフィッシュトーナメント in 串本	串本町・串本漁港等	串本町産業課 0735-62-0557
6/22	恋野あじさい祭り	橋本市・ 恋し野の里あじさい園	恋野地区公民館 0736-33-2458
6/28 6/29	白浜ビーチラグビー大会	白浜町・白良浜	実行委員会 0739-42-4686
6/30	夏越大祓式	田辺市・熊野本宮大社	熊野本宮大社 0735-42-0009
6/30	茅の輪くぐり	九度山町・慈尊院	丹生官省符神社 0736-54-2754
7/1	海開き	和歌山市・片男波海水浴場 ほか県内各所	海水浴場管理運営委員会 073-447-9080
7/1～ 7/7	七夕祭り	和歌山市・淡嶋神社	淡嶋神社 073-459-0043
7/7		和歌山市・紀三井寺	紀三井寺 073-444-1002
7/4～ 7/6	すさみビルフィッシュ トーナメント	すさみ町・すさみ等	すさみ町商工課 0739-55-2293
7/9	那智の滝大しめ縄張り替え	那智勝浦町・熊野那智大社	熊野那智大社 0735-55-0321



青葉まつりは、弘法大師の生誕を祝うお祭りで、この時期、新緑が最も美しい季節のため青葉まつりと名付けられました。
町民による「大師音頭」が、道いっぱいに練り広げられ、参拝者も参加できます。

自然・風物情報(6月中旬～7月上旬)

時期	自然・風物名	場所	問い合わせ先
6月中旬	スモモの収穫最盛期	田辺市	J A紀南 0739-23-3450
6月中旬	茂木ビワ出荷始まる	下津町・J Aながみね	J Aながみね 073-487-0987
6月中旬	南高梅出荷ピーク	印南町・集荷場	J Aみなべいなみ 0739-72-2650
6月中旬	新ショウガ収穫ピーク	和歌山市・ 湊、布引、小豆島	J Aわかやま 073-471-3731
6月下旬	青玉ユズ初収穫	古座川町・ ふるさと定住センター	ふるさと定住センター 0735-78-0005
6月下旬	ノウゼンカズラ見ごろ	田辺市・新庄総合公園	田辺市管理課 0739-26-9966
6月下旬	ササユリ見ごろ	田辺市・中辺路町近露	中辺路観光協会 0739-64-0501
		田辺市・発心門	熊野本宮観光協会 0735-42-0735
6月下旬	大賀ハス開花	美浜町・大賀池	美浜町教育課 0738-22-7309
		紀の川市・青洲の里	青洲の里 0736-76-6008
6月下旬	あら川の桃出荷始まる	紀の川市・桃山町	あら川の桃振興協議会 0736-66-1259
7月上旬	するめーる暑中見舞い バージョン	すさみ町	すさみ町商工会 0739-55-2293
7月上旬	サンゴの産卵	串本町・ 串本海中公園センター	串本海中公園 0735-62-1122
7月上旬	ウミガメが産卵	白浜町・白良浜海水浴場	白浜町観光課 0739-43-6588



ビワは、水はけのよい傾斜地で栽培され、糖度が高く、酸味の少ないものとなっています。
 衝撃に弱く、出荷時は果実の表皮の毛を落とさないように気をつけて扱われます。果実の90%が水分で、ビタミンB群、りんご酸、クエン酸などを含みます。
 海南市下津町の「茂木ビワ」は、果肉がやわらかく甘みも十分で人気があります。

(平成25年産ビワの収穫量)

順位	1	2	3	4	5	6
都道府県名	長崎県	千葉県	鹿児島県	香川県	愛媛県	和歌山県
収穫量(t)	1,730	556	435	409	396	280
収穫量割合(%)	35	11	9	8	8	6

～編集後記～

6月に入り一気に夏の訪れを思わせる暑い日が続きましたが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。まだまだ、身体が暑さに慣れておりませんので、熱中症にはくれぐれもお気をつけください。

さて、平成25年産温州みかんの収穫量が日本一に輝きました。ライバルの愛媛県、静岡県を抑えて10年連続のトップです。私が子どもの頃から、近所でも多くの方々がみかんを作っていましたし、みかんと言えば和歌山という思いでありました。今なお日本一であり続けることは誇らしくもあります。とりわけ、生産者の方々には、頭が下がる思いです。

一方、収穫量や消費量は減少傾向にあり、農家の高齢化率も高く、喜んでばかりもいられない状況です。県としても、新規就農者の育成や、首都圏・海外への販路開拓など、「攻めの農業」を展開できるよう一層支援していかなければなりません。

また、県では「おいしい！健康わかやま」のイメージ定着戦略により、県産食材の機能性を積極的にPRしているところです。みかんは、美肌や美白、風邪や骨粗鬆症予防に有効なビタミンCをはじめ、発がんを抑えるβクリプトキサンチンも豊富であり、まさに「おいしくて、健康にもよい」のです。ほかにも日本を代表する機能性食材である梅、花粉症の緩和に効果があるじゃばらなど、たくさんあります。これらの食材の消費拡大につながるよう、効果的な情報発信に取り組んで参ります。

これに関連し、先月号でお知らせしましたが、「おいしい！健康わかやま産品応援隊」に就任いただいた和歌山トライアズは、ウェスタン・カンファレンスを制し、プレーオフ・ファイナルまで勝ち進みました。惜しくも日本一を逃してしまいましたが、和歌山への本拠地移転後1年での大躍進に、大きな感動と勇気をもらいました。早くも来シーズンの活躍にも期待が高まります。その前に、間もなくサッカーのワールドカップが開幕します。寝不足になりながらもテレビで応援したいと思います。

そろそろ梅雨入りを迎え、うっとうしい日や蒸し暑い日も多くなると思いますが、体調管理には万全を期してお過ごしください。

知事室秘書課長 森田 康友

★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんで頂けますので是非ご覧下さい。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

(下記のFAX(様式自由)、E-Mail等でお願ひします。)

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

ふるさと和歌山応援サイト <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。



2014年(平成26年)6月 NO.74

和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2022